

平成28年 3月発行

虹いろ

No.16



題字 浅川博子様

表紙写真 若林正幸様

L i n e

u p

- ハケ岳名水会の現状と将来に向け
- 視察研修報告 北海道・大阪
- 星の里・春の陽・菜の花施設改修工事について
- その他

八ヶ岳名水会の

現状と将来に向け

社会福祉法人 八ヶ岳名水会

理事長 坂本 敬新

私たち八ヶ岳名水会は、共に暮らす地域の創造と実現 Ⅱ ノーマライゼーションⅡ を理念に、「何人も平等である」という創設の精神のもと活動しているところです。この理念と創設の精神を達成するために、法人の活動を理解していただけている後援会の皆様、いろいろな立場から後押ししていただいている皆様、保護者の皆様、共に目標を目指している、主役である利用者の皆様の多大なご協力をいただきながら、歩んで参りました。

その中で平成二十七年度は、これからの法人をより強い体制にするよう法人本部を作り、支援に集中できるようにして参りました。一月、日野春小学校を中心として、のほら楽団でのインドア活動・春の陽のアウトドア活動と幅広い活動につながる事を皮切りに、今後の展開を段階的に進めていく準備として、利用者の個々の個性に合わせ

た活動ができるように、法人の三本の柱 ①食 ②農 ③アートを具体的に進めていく日野春学習舎構想が本格的にスタートしました。のほらファームの準備、アート企画の推進、就労に向けてのブリッジスクールの開校など、地域の皆様のご協力とノウハウをいただき、着々と活動が進められています。

目を北に向けますと、星の里を中心として、高齢化していく利用者の皆様の今後の準備、施設の老朽化対応、バリアフリー化の推進、個々に応じた生活ができるようにとのユニット化など、先を見た計画が具体化されています。また、さらに高齢化への対応を推し進める内容として、ゆつくりとマイペースで日々を過ごせることを目的としたグループと重い障害の方々の暮らしの場所として、平成二十九年開設を目指し、グループホーム太陽（仮称）の建設を予定し、プロジェクトを



立ち上げ推進しているところです。

平成四年に初代理事長が立ち上げ、産

声をあげた八ヶ岳名水会がそれぞれの立場を持つ皆さんの知恵と工夫により、利用者の皆様の第一にと考えた各事業・サービスが立派に育ってきたことに大きな喜びを感じています。

当法人がなければ困る。当法人があつて良かった。という利用者の皆様や、保護者の皆様の声を糧に努力している二百二十名を超える職員には一層の奮闘をお願いします。



社会福祉法人改革も始まります。当法人も今までに述べたように転換期にきています。日中活動・就労関連・居住生活支援関連・地域生活関連、そして相談関連とありますが、それらが地域と連携し合い、当法人の特色を生かした、サービスをまっすぐひたすら作っていきます。地域で当たり前に暮らすという明るい未来を信じ、無限の可能性を引き出せるように、今後とも役員及び職員が一体となって努力していく所存であります。

ぜひ、より大勢の皆様が共に歩んでいただければうれしく思います。

先進他法人見学研修（大阪）

で学んだこと

「ぼーら」支援員 望月杏沙美

初日は、社会福祉法人北摂杉の子会、障害者支援施設「萩の杜」に伺い見学とお話を聞かせて頂きました。こちらの施設は16年前に開所しており、「星の里」程ではないものの、重度高齢化の課題を抱えています。衛生管理十介護力十医療連携十柔軟性が高齢化には必須という話でした。特にこちらの施設では、職住分離がなされており、日中は利用者がいません。朝、夕2回の全館消毒を毎日行っているそうです。

また、医療連携を的確にするため、医療側と支援者側とで構造化されています。例えば排便を7つのタイプに分類し、写真と説明を表にしています。支援者はどのタイプの便が出たかを医

療者に伝えます。こうすることによって正確に状況を伝え、健康状態を把握することが出来ます。

さらに「星の里」と異なる点として、ユニットケアが挙げられます。1ユニット11〜14名で構成されており、個室か2人部屋でいたる所に個々の障害特性やニーズに合わせた工夫がなされています。少人数で利用者に分かりやすくゆったりと過ごせる環境となっていました。

2日目は、「レジデンスなさはら」という、強度行動障害の方々が地域で生活するために造られたグループホームに行ってきました。早期にグループホームや部屋割りを行い、一人一人のニーズや障害特性に合わせて設計されています。

3ホームあり、それぞれ6〜7名で生活しています。各ホームにお風呂・トイレ・洗面所が2ヶ所あり、それらが建物の左右の端に配置されています。動線の整理と刺激の少ない環境になっ

ています。基本的な考えは「萩の杜」と同じですが、こちらの方がより個別の対応を丁寧に行っていました。また、誰でも支援できるよう個別の支援をマニュアル化し、OJTを基本とした人材育成システムが構築されています。さらに質の高い生活の支援として、一番に、「調理師を配置し個別の嗜好や特性に合わせておいしい食事を提供すること」とおっしゃっていました。名水会でも新しいグループホームの建設が決定しているので、是非参考にしたいと思いました。

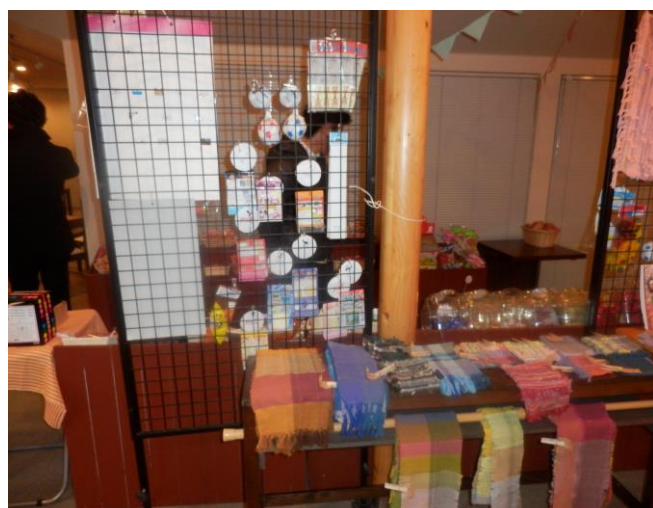


北海道研修

「はるにれの里」「ゆうゆう」

二法人への見学研修

今回の研修は平成二十七年十一月十二日から十一月十四日の期間で小泉晃彦・守屋亮・小林瑞樹・市川大樹の四名で北海道の札幌市周辺の施設や事業所の見学に行っていました。



研修の目的については、専門性をもって先駆的に地域展開の取り組みを行っている、社会福祉法人「はるにれの里」と社会福祉法人「ゆうゆう」の見学から、自分たちの持つ、現状の課題について解決のヒントを得たいと思い参加してきました。

はるにれの里では環境整備、空間の使い方、可視化（みえる化）などTECCHの手法を使っている構造化についてと職員のメンタルヘルスについて学びました。構造化については春の陽では平成二十七年当初から「片づけ」をテーマに整理整頓が環境整備につながり、利用者の方が目的をもって取り組める空

間、動線が混在しすぎないように空間設定やグループ化を行い、利用者だけでなく職員にも共通して使えるもので情報の可視化をすすめています。

職員のメンタルヘルスについては職員同士の話し合いの機会を課題の大小問わずに確認していくことと担当者だけが孤立することなくオープンにしていくことが大事であることを学び、日々の中で「利用者のちよ

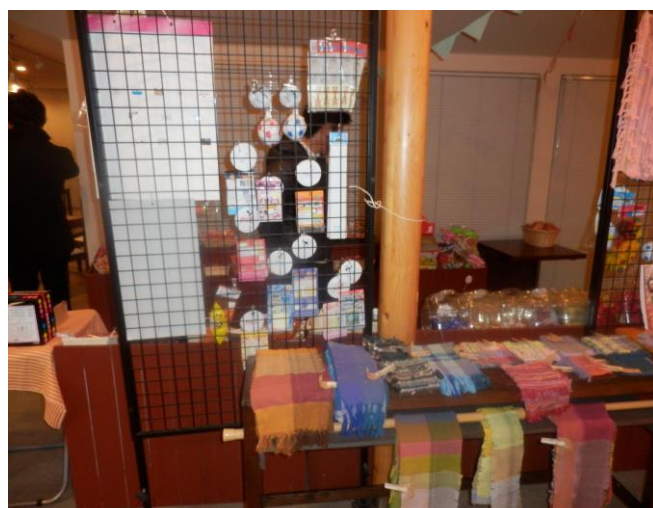


北海道研修

「はるにれの里」「ゆうゆう」

「法人への見学研修」

今回の研修は平成二十七年十一月十二日から十一月十四日の期間で小泉晃彦・守屋亮・小林瑞樹・市川大樹の四名で北海道の札幌市周辺の施設や事業所の見学に行ってきました。



研修の目的については、専門性をもって先駆的に地域展開の取り組みを行っている、社会福祉法人「はるにれの里」と社会福祉法人「ゆうゆう」の見学から、自分たちの持つ、現状の課題について解決のヒントを得たいと思い参加してきました。

はるにれの里では環境整備、空間の使い方、可視化（みえる化）などTECCHの手法を使っている構造化についてと職員のメンタルヘルスについて学びました。構造化については春の陽では平成二十七年当初から「片づけ」をテーマに整理整頓が環境整備につながり、利用者の方が目的をもって取り組める空

間、動線が混在しすぎないように空間設定やグループ化を行い、利用者だけでなく職員にも共通して使えるもので情報の可視化をすすめています。

職員のメンタルヘルスについては職員同士の話し合いの機会を課題の大小問わずに確認していくことと担当者だけが孤立することなくオープンにしていくことが大事であることを学び、日々の中で「利用者のちょ





つとしたこと」を現場の方からの報告として大事にして共有化していきたいと思います。ゆうゆうでは法人のミッションに地域づくりが明確に位置づけられていることから事業所の展開や活動が地域の中に根付いていることや障害の方に限定されずに共生のもとに誰でも参加でき支え合うという仕組みができていました。春の陽では農業を軸に地域と一緒にというテーマでまたハケ岳名水会の地域展開をみんなで考えていけたら

と思いました。

地域展開をはかる上での基礎の中にゆうゆうの凄みとして一点ありました。一点目は各事業で案内していただいた現場の方々が年齢は二十代の方たちが多く自分たちの仕事地域にどのような役目（ミッション）として位置付けられているか明確に説明ができることがある。もう一点は人材育成にありました。利用者理解から支援の設計図を描けるようになることやサービス体制の仕組みの理解から関係機関との連携や社会資源の開発までを研修として行っていることがあり



ました。春の陽や法人の中で日々の支援の取り組みをベースにさらにバージョンアップして職員のモチベーションを保てる取り組みを考えていきたいと思っています。

最後に三日間の研修にあたり現場を支えていただいたスタッフや妊婦にも関わらず研修参加を快諾してくれた家族に感謝しながら研修報告にさせていただきます。

*研修の一週間後に元気に第二子（男子）が誕生しました。家族ともどもこれからもよろしく願います

春の陽
市川大樹

星の里と春の陽の施設改善・改修工事について

経営企画室 窪川 敦之

私ども社会福祉法人八ヶ岳名水会（以下…当法人という）は、平成5年に入所施設「星の里」の開設からスタートし、皆様からのご要望に基づき、ご協力をいただいて事業を展開し、今年で24年目を迎えることができました。この間、ご支援をいただいた方々には改めて感謝申し上げます。この24年の歳月は当法人の大切な歴史ではありますが、しかし同時に、長年使用してきたいくつかの施設や設備に深刻な経年劣化をもたらしました。さらに、利用ニーズの変化や利用者の増加によって、使い勝手の悪さやスペースの不

足も生じています。そこで、これらの諸問題を改善すべく、この数ヶ年間にいくつかの施設で大規模な改修や増築工事を行うこととなりました。

まず星の里は、開設当初は初代坂本清満理事長の苦心により全館床暖房や24時間の給湯等最新の設備を備え、標高1000mという高冷地にあつても大変快適な生活の場でしたが、近年、床暖等複数の設備が老朽化し、耐用年数を迎えて使用できなくなると同時に、開設当初から利用されてきた方々の高齢化によって、トイレや段差など、各設備の使い勝手が相対的に悪くなるなど、残念ながら住みやすいとは言えない状況となってきました。

これらの解決のため、電気式の床暖房やエアコンといった安全快適な暖房設備の設置を行いました。また、バリ



アフリートイレの整備、さらに、短期入所のご利用希望への対応のための居室2部屋の増設等も行います。

次に、平成16年度に日本財団からの助成をいただいて建てられた「活動支援センター春の陽（以下…「春の陽」という）においては、建設から10年を

経る中で、利用者数の増加や重度化及びニーズの多様化によって、活動スペースの不足や使い勝手の悪さが生じ、さらに提供食数の余裕を見て設計された厨房設備も、これから必要となるであろう食数に対応できない、といった諸問題が生じてきました。

これらをすべて解決するためには、大規模な改修を計画しなければならず、当然それに伴う負担も多額になることが予想されました。しかし、時を同じくして日本財団より、「春の陽」のように過去の助成によって建設した建物に対して、10年の節目以降に改修の助成を下さるというお話があり、ありがたいことと受け止め、平成27年度、この計画を具体化することとなりました。

まず「春の陽」の建物1階、通所事

業所の「菜の花」が使用している部分では、西側の車寄せスペースに部屋を増築するとともに、北向きだった玄関を南向きに変更することとしました。これにより、来客者目線から玄関入り口わかりやすくなり、車椅子利用者のアプローチも直線的になって、安心・安全の向上が期待できます。

また、建物2階の厨房部分においては、西側の車寄せスペース一杯に厨房を拡張し、汚染区域と非汚染区域の区分けや、調理の作業動線の分かり易さにも配慮した余裕ある厨房を計画しました。このことにより、食数増加への対応はもちろんのこと、将来的にA型事業を立ちあげた際の作業場所として、また、中間的雇用の場としての展望が開けます。

当法人は、利用して下さる皆様にと

って今後10年20年と快適な生活や作業の場であるために、ご支援下さる皆様のご理解とご協力をいただきながら、施設設備の改善・改修に計画的に取り組んで参りたいと思っています。皆様には今後も変わらぬご高配を賜ることが叶いますよう、引き続き宜しくお願い申し上げます。



ありがとうございます！

○題字を書いてくださった方

星の里 看護師

浅川 博子 様

○表紙絵を描いてくださった方

ランタン利用者

若林 正幸 様

素敵な字と絵を有難う御座いました！

赤い羽根共同募金のご報告！

諸団体からの補助金、助成金に後援会費、寄付金をプラスして購入！

この度、星の里で使用するレクレーション用品としてカラオケ用テレビ3台、プレーヤー1台、ラジカセ1台、ミニコンポ1台を新たに購入いたしました。ありがとうございます！



編集後記

この春、県内でまた十二の小中学校が閉校になる。二校は統合後の校舎として活用されるため、差し引き十校から子どもの姿が消える。過疎や少子化で増える廃校だが、旧日野春小中学校のように活用も進んでいるところもある。三年前に閉校した旧小泉小校舎ではヨガや体操教室などが行われ、校庭はドッグスクールとなっている。全国に目を向けると、自然の猛威を受け使えなくなった学校も数多くある。東日本大震災で児童と教職員八十四人が犠牲になった宮城県石巻市の大川小もそのひとつ。被災校舎は津波の教訓を伝える遺構となるため、保存を求める動きがある一方で、悲しい記憶の象徴となるため解体を望む声も少なくないという。そんな中、山梨県内でも校舎保存を支援する住民グループによるコンサートが開かれ「忘れないことが鎮魂につながる」というメッセージは、日本人誰もが共有する思いであることは間違いないだろう。

私たちも旧日野春小を再興する団体として、そんな気持ちを忘れずにいつまでも大事に使っていききたいものである。この春、震災から五年目の節目を迎えた。

錦

社会福祉法人 ハケ岳名水会

〒408-0031 山梨県北杜市長坂町小荒間 1095-7

TEL 0551-32-7355

FAX 0551-32-7350

E-mail hoshinosato@coast.ocn.ne.jp

URL <http://www4.ocn.ne.jp/~hosi7355/>

広報委員会スタッフ

錦見祐治（陽だまり） 廣瀬政光 小池翔 穂坂雄太 浅利美衣（以上菜の花）

伏見祐司 相吉謙輔（以上星の里） 阿部通洋 村瀬成美 高柳優（以上春の陽）

望月杏沙美（ぽーら） 立川瞳（相談支援） 法人事務局

